

人口ビジョン（概要版）

《目標年次は、国立社会保障・人口問題研究所（社人研）の推計期間である2040年とする》

I. 栄町の人口の分析状況

(1) 栄町の状況

◆栄町の総人口は、平成10年の26,182人をピークに令和元年では20,675人まで減少している。

なお、国立社会保障・人口問題研究所の推計(20,092人)より、2019年で583人多くなっている。

(2) 出生・死亡の推移

◆合計特殊出生率

平成29年度で1.06（平成27年度では0.85）
（全国平均：1.43 千葉県平均：1.34）

※全国・千葉県より、かなり低くなっている。

◆出生数

平成27年度から平成30年度の出生数は年間平均100人程度で推移している。

◆死亡者数

平成27年度から平成30年度の死亡者数は年間平均220人程度で横ばいだが、高齢化の進展により、今後増加することが見込まれる。

- ・H27（75-84歳56人・85-94歳81人・95歳以上21人）
- ・H30（75-84歳68人・85-94歳90人・95歳以上25人）

(3) 転入・転出の推移

◆転出超過数が、平成25年では289人であったものが、平成30年度では89人まで減少し社会減は緩やかにはなってきた。

※定住・移住施策により社会減が改善してきている。

年	転入	転出	増減
H23	677	900	-223
H24	634	873	-239
H25	645	934	-289
H26	708	787	-79【不動産定住班】
H27	739	798	-59
H28	686	828	-140
H29	667	849	-182
H30	629	718	-89

(4) 高齢化の状況

◆平成31年4月で

65歳以上の割合36.5%（千葉県平均：26.8%）

75歳以上の割合14.7%（千葉県平均：13.1%）

※今後、75歳以上の後期高齢者が急激に増加することが見込まれる。

(5) 昼夜間人口比率

◆平成27年度で、71.1%（全国ワースト3位：国調）

（千葉県平均：89.7%）

※町内に高校・大学がなく、雇用の場も少ないことから、低い比率となっている。

II. 人口の将来展望

(1) 将来展望に必要な調査・分析

若者の、出産、転入などの指標設定からの推計など、人口ビジョン策定にあたって必要な調査分析を行いました。

(2) 目指すべき将来の方向性

～基本目標～

§今の人口構造を変える§

現在の人口ピラミッドの構造を、若い世代の転入促進及び、転出抑制により改善していく。

さらに、出生率を高め持続性のある人口構造に変える。

～基本的方向～

安心して子育てができる町・・・少子化克服への挑戦

子どもの笑顔があふれ、安心して子育てができる栄町づくりのため、切れ目のない子育て支援施策をきめ細かに展開し、結婚・妊娠・出産・子育て・教育に温かいと言われる栄町の実現を目指す。

将来に向けて活力のある町・・・地域経済力向上への挑戦

町の基幹産業である農業の振興を行なうとともに、成田空港が近いと言った立地を生かし、工業団地の拡張や企業立地等を推進し、地域経済力と雇用力の向上を図り、住み続けながら働ける栄町の実現を目指す。

若い世代をはじめ誰もが住みやすい町・・・人口構造改善への挑戦

栄町の持続的発展のためには、現在の人口構造を変える事が必要であり、子育て支援や雇用の場の創出などとともに、住環境や生活の利便性向上など、若い世代の受け皿づくりを進め、若い世代が転入し住み続けやすい栄町の実現を目指す。

III. 栄町の将来人口

（目標年次：2040年）

令和22年

◆栄町の総人口目標◆

社人研推計：13,214人

出生率の向上と社会増



目標人口17,000人

【前回目標人口】17,500人

※2019年の人口は、国立社会保障・人口問題研究所の推計に比較し583人上回っている。

◆出生率の目標◆

H29=1.06人

令和12=1.43人（前回目標1.43）

※2018年の全国平均1.43まで上昇させる

令和22=1.80人（前回目標1.60）

※2030年の国の目標1.80まで上昇させる

【前回目標率】1.60

◆社会増減の目標◆

令和3～7年：±0

令和8～12年：+20人/年

令和13～17年：+40人/年

令和18～22年：+60人/年

※雇用の増加、住宅開発、アパート建設の促進等により社会増を図る。

※社会増の対象は、20歳～39歳の男女及び、0歳～19歳の子供をターゲットとする。

※外国人：令和元年から、別に毎年+10人転入

◆今の人口構造を変える◆

・0～19歳人口

H27=13.1% ⇒ R22=14.3%（社人研推計からの増分：+4.6ポイント）
（社人研推計=9.7%）※前回15.9%

・20～39歳人口

H27=20.1% ⇒ R22=14.9%（社人研推計からの増分：+3.3ポイント）
（社人研推計=11.6%）※前回14.1%

※日本創成会議：女性の減少率77.3%と推計し、自治体消滅度県内No1の要因にもなっている。

・65歳以上人口

H27=30.3% ⇒ R22=40.3%（社人研推計からの減分：-9.2ポイント）
（社人研推計=49.5%）※前回39.6%